

やっぱり多い冬の火事

1日約1,700万円が焼失

師走を迎え、最近はめっきり寒さが厳しくなってきました。これからは何かと火を使う機会が増えることと思いますが、みなさん、防火には十分気を使われているでしょうか。

かつては拍子木を叩いて子ども会や町内会の人々が夜回りをしたのですが、今では消防署・団のポンプ車が鐘を鳴らしながら巡回し、火の用心を呼び掛けているところも多いと思います。

やはり、空気が乾燥し火を使う機会が多くなる冬場は火災が多く発生するようです。

昨年、本県では1,750件の火災が発生しましたが、これを月別に出火件数の多い順にみえますと、1月が最も多く234件（構成比13.4%）、以下2月232件（同13.3%）、3月199件（同11.4%）、12月の189件（同10.8%）の順となっています。

四季別でも春季（3月～5月）が447件（構成比25.5%）、夏季（6月～8月）が303件（同17.3%）、秋季（9月～11月）は345件（同19.7%）、そして冬季（12月～2月）が655件（同37.4%）と、冬が一番多く発生していますので、これからの時期は

特に注意が必要です。

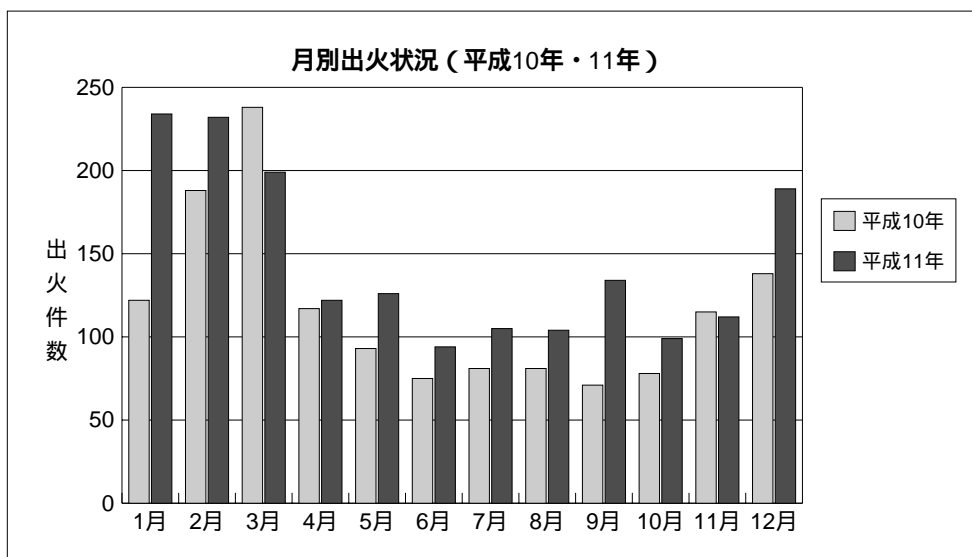
また、昨年の出火の原因としては、悲しいことに放火および放火の疑いによるものが最も多く333件（構成比19.0%）、これは全国的にみても同じで、全国の火災発生件数58,534件のうち7,482件（同12.8%）となっています。次いでたき火によるもの192件（同11.0%）、たばこによるもの138件（同7.9%）、以下こんろ、ストーブ、火遊びと続きます。

火災による損害額も大きく、本県では平成11年中の火災により61億659万2千円、1日当たり約1,700万円、1件当たり約350万円の損害が出ています。

火災は一瞬のうちに私たちの生命を奪ったり、大切な財産を灰にしたりしてしまいます。より防火意識を高め、無事21世紀の初春を迎えたいものです。

（県統計課）

平成12年12月9日掲載



（資料：茨城県消防防災年報）

「ふるさとおもしろ統計学」は第2、第4土曜日、茨城新聞に掲載されています。

郵送料の支出パターン

11,12月で年額の70%

今年も残り少なくなり、いよいよ21世紀を迎えますね。

元旦に届く友人や知人などからの年賀状は、とても楽しみなものです。年賀状は虚礼だから書かないという人もいますが、ファックスや電子メール、携帯電話などを使って新年のごあいさつをする人も増えてきているようです。

また、ここ数年、パソコン印刷用年賀はがき「インクジェット紙」の人気の高まっています。今年の全国の発行枚数は6億6千万枚で、昨年の2億8千万枚の約2.4倍に増えており、年賀状発行総数42億5千万枚の15.5%を占めています。

以前はスタンプなどを使って年賀状を作ることが多かったわけですが、パソコンの普及やプリンターの性能が向上したことを背景として、パソコンやワープロを自由に使いこなして年賀状づくりに取り組んでいる人が増えたようです。でも、手書き、中でも毛筆のものなども味わいがありますね。

今回は、平成11年の総務庁（現総務省）の家計調査の結果から、本県での年賀はがきの購入について水戸市のデータから見てみました。

家計消費支出のなかで、年賀はがき代や切手代、ゆうパック代を含む一世帯当たりの「郵送料」を

みると、11月が3,102円で最も多く、次いで12月が2,032円で、11月は最も少ない6月の135円の約23倍となっています。

年賀状が発売される11月及び12月の郵送料の合計額5,134円は、年間の総額7,747円の約7割となっています。

また、11月及び12月の郵送料合計額の全国平均は3,894円ですので、本県は全国平均を大きく上回っています。

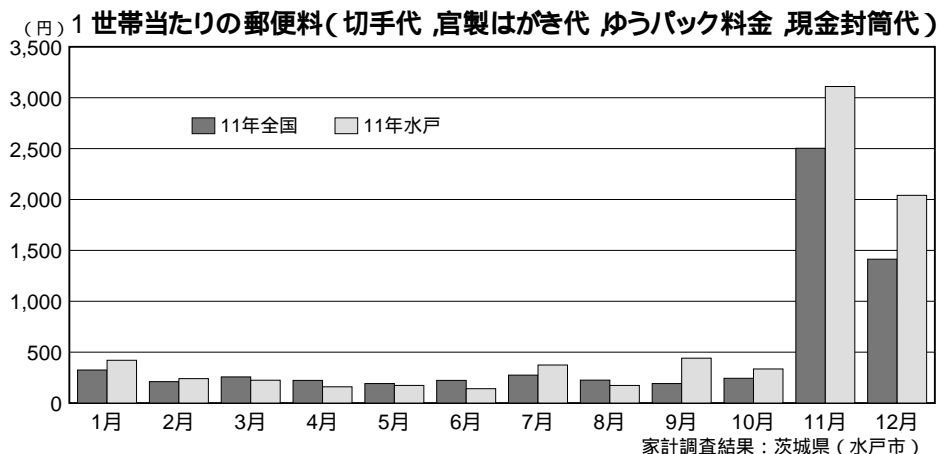
ちなみに、11月及び12月の郵送料と1月から10月の平均郵送料の差額4,612円を全て一枚50円の年賀状の購入に充てていると仮定すると、一世帯当たり約92枚で全国平均では約69枚購入していることになります。

このような郵送料の支出のパターンによると、本県では、暮れのごあいさつや年賀状をまめに出す人が多いことがうかがえます。

これからのIT（情報技術）の時代に、新年のごあいさつもいろんなスタイルがあるようですが、新しい世紀の年賀状はどのように進化していくのでしょうか。

（県統計課）

平成12年12月23日掲載



「ふるさとおもしろ統計学」は第2、第4土曜日、茨城新聞に掲載されています。

